FUTABA・JOURNAL

静岡市葵区追手町10－71
静　岡　雙　葉　学　園
新　　聞　　部
電話(054)271－3254
印刷所　ササキデザイン社

白熱した体育祭 総合優勝は東組！

▲ 選手宣誓　青空高く響く

六月七日（火）に草薙総合運動場にて体育祭が行われた。

前日まで雨が心配されていたが朝から晴天。開会式前の七時三十分から高校生が集まり、「みんなで８の字」の練習に取り組んだ。開会式の選手宣誓では体育委員長の柴田麻結佳さんが「コロナ禍で様々な人の協力で行われることに感謝して競技に励む。」と真剣な眼差しで語った。

開会中は競技や式の様子を保護者が閲覧できるようにする為に、メディア班によって中継された。また、運動部員は選手の招集や審判などを担当した。全ての表彰状の名前を手掛けたのは高１と高２の書道部員。一つの文字を書くのにも四十回以上練習し、心を込めて丁寧に、清書に励んでいた。

昼休みには先生方による「障害物競走」が行われた。総勢二十二名の先生方が東西南北に別れて対戦。ぐるぐるバットやシュークリーム早食い対決、大玉運び、縄跳びなどに挑戦し、高２北の体育委員による実況と共に会場は大いに盛り上がった。結果は東南西北。

最後を飾ったのは六学年で組ごとにバトンを渡す「理事長杯リレー」。途中までは激しく順位が入れ替わる大混戦であったが、最終的に東組が一位でゴールした。結果は東南北西の順である。

理事長杯リレー終了後突然の大雨。閉会式は、観客席に生徒が残った形で執り行われた。総合優勝は東組で二位以下に大きな差を付けた。

勝敗に関わらず、どのクラスも練習した成果を出し切る為に正々堂々と戦う姿が印象的だった。この経験は今後の学校生活に必ず活きてくるはずだ。

＜結果＞
総合　東西南北
学年　中一　西南東北
　　中二　北東西南
　　中三　東西北南
　　高１　東西北南
　　高２　東西北南
　　高３　北東西南

中一

▲ 協力して走る中一生

中一の学年種目、「ウエーブ２０２２」では、東組が勝利を収めた。

この競技は、二人一組で綱を持ち、四〇メートル先のコーンを回る。そしてバトンとなる綱の上を次の五組が跳ぶ競技だ。綱の上を二人ずつ五組が跳ぶため、息を合わせることが必要となる。練習では、ペアと共に作戦を立てる場面などが多く見られた。本番中には、励ましの言葉を掛け合ったり、互いを応援し合う姿が見られた。競技を無事に終えた。

中一生は、今回が初めての体育祭。緊張のあまり、焦ってしまうことがあったが、クラスの仲間と協力し合い全ての力を出し切った。団結力が深まった思い出深い一日となった。

＜結果＞東南西北

中二

中二生は「台風の目」を行った。雨上がりの芝生に足を取られ、三人で息を合わせてコーンを回ることが難しかった。

この競技で勝敗を分けたのはバトンパス。一位を手にした北組の一人は、「クラスで重点的に練習した。」と振り返る。三人同時にバトンを受け取る、スタートラインからはみ出さないなど、バトンパスの練習が鍵となったようだ。

▲ 息をそろえて駆け抜ける

北組はバトンパスに加えて、声掛けにも力を入れた。練習の際に高記録が出ても、「気を緩めてはいけない。この記録で満足しない。」と声を掛け合い、互いに意識を高め合って本番に臨んだ。

個人、チーム、そしてクラス。全ての力が必要となる競技であった。どのクラスも団結力をより強めることができた。

＜結果＞北東西南

中三

▲ ボールを届けに全力で走る中三生

中三生は、新種目である「たらいにトライ」を行った。

ボールをどのように投げたら次の人が受け取りやすいか、コーンの回り方やたらいにボールを入れる時の投げ方など工夫した。

「ミニ体育祭では最下位だったので、当日に逆転できて嬉しい。」そう話すのは西組の生徒。各クラス、ボールを落としたり、たらいにボールがはまってしまったりしたがどのクラスも全力を出した結果となった。

＜結果＞西東南北

高1

高１生は「玉入れ」を行った。今年度の玉入れは、スタートラインから走り、途中で玉を拾いその先の籠に投げ入れるという例年とは異なるルール。開始の合図と共に勢いよく走り出す様子から、勝利に対する強い情熱が窺えた。一位となった西組の生徒は、「三十秒以内に全員が籠に辿り着くようにする、半径一メートル以内から下投げするなど工夫を重ねた。本番で最高記録を出すことができたので嬉しい。」と語った。

＜結果＞西東北南

高2

▲ 一生懸命に籠へ玉を投げる高1生

高２生は「一球入魂御輿」を行った。この競技は二人一組で大玉を棒で挟み、つないでいくものだ。一回大玉を落としてしまうと、それを直すのに多くの時間がかかる為、いかに安定させて大玉を運ぶかが勝敗を分けた。

試合前の緊張した面持ちとは打って変わり、競技が始まるとクラス全員で「もっと速く！」「手は飛行機のようにのばして！」と声援を送り、熱戦の中でも笑顔が絶えることはなかった。

優勝はバトンパスに工夫が凝らされた南組。クラスで円をつくり、その喜びを噛みしめていた。

＜結果＞南東西北

▲ 息を合わせて玉を運ぶ高2生

高3

高３生は「綱取り」を行った。最後の学年種目のため、皆気合が入っており、試合前にはクラスごと円陣を組んでいた。高３生は全員、ダンスのときに着たクラスＴシャツで参加した。

ルールは名前の通り、中央に並べてある綱をより多く自分の陣地に運んだクラスの勝ちである。クラス同士の直接対決で全６試合の総当たり戦で行う。

試合は白熱し、綱取りに本気で臨んでいる高３生の姿が見られ、会場を湧かせた。試合も終盤になると、綱ごと引っぱられる人もいた。

結果は北組が全勝で、他クラスと圧倒的な差をつけ一位であった。

＜結果＞北西南東

▲ 高3生の熱き戦い

100m

一〇〇ｍ走では、計四十八名の生徒が参加した。各クラスから二人の選手が選ばれ、クラスメイト達からの期待を背負って一〇〇ｍを走り切った。

▲ 中三の榛葉ひなたさん

▲ 高２の臼井千晴さん

高校３年生の部で一位になった関口結映さんは、「陸上部に入っていましたが引退していたので、毎日練習して走っていた頃と同じようにいくのかは不安でした。最後の体育祭で得意な一〇〇ｍに出るなら、一位を取ろう、という気持ちもあったので一位になれて嬉しいです。」と語った。

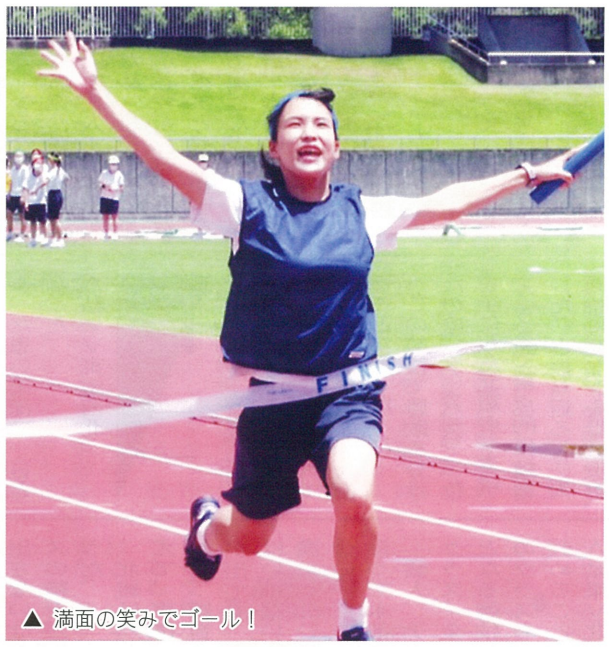
＜一位入賞者＞
○中一
　西組　澤田珠希　十五秒二五
○中二
　北組　松本理暖　十三秒七七
○中三
　南組　榛葉ひなた　十四秒三八
○高１
　北組　笠井彩葉　十四秒九六
○高２
　東組　臼井千晴　十二秒五四
○高３
　北組　関口結映　十四秒一五

石の声

▼七月二十三日にある土用の丑の日を知っているだろうか。この日にうなぎを食べる風習があることから、楽しみにしている人も多いだろう。▼土用の丑の日の「土用」とは季節が変わる約十八日間を意味し、全ての季節に存在している。また、「丑」は十二支とも関係している。十二支は、干支のイメージから一年ごと変わるという印象が持たれているが、一日単位でも決められている。土用の丑の日とは約十八日間の土用の日にある丑の日という意味が込められているのである。▼なぜ夏の土用の丑の日が特に知られているのだろうか。そもそも、土用とは季節の変わり目のため体調を崩しやすい。特に夏は冷蔵庫もなかった昔には雑菌が繁殖しやすいため疫病が流行しやすかった。その結果、夏の土用の丑の日が最重要視されるようになった。▼その日にうなぎを食べる理由は、うなぎに含まれているビタミンやカルシウムなどの栄養素が含まれており、夏バテ防止になることや、丑の日の「う」がつき縁起が良いなど諸説がある。▼夏は体調を崩しやすい。だから栄養のあるうなぎを土用の丑の日に食べ、夏にある様々な行事を健康に楽しんでいきたいものだ。

一面担当　美緒
二面担当　由依
三面担当　真奈
四面担当　穂香

クラス対抗リレー


▲ 満面の笑みでゴール！

午前の部の最後の種目では、「クラス対抗リレー」が行われた。

この種目は、同じ学年でクラスごと四名の代表選手が選ばれて、リレーのタイムを競うものである。選手には運動部に所属している人や走力に自信のある人が選ばれる。また、リレーは、選手一人ひとりの足の速さだけでなく、バトンパスの技術も重要になる。途中でバトンを落としたり、バトンゾーンでバトンを渡せなかったりすると失格になってしまうため、注意が必要だ。そのため、選手たちは本番一週間前から毎日朝練に取り組み、バトンパスを念入りに練習していた。

本番競技中、今回はどのチームも違反がなく、代表に選ばれた選手たちは懸命にバトンをつないだ。バトンパスの瞬間に順位が入れ替わることもあり、波乱のレースだった。アンカーが走り出すと、観客の声援は一気に大きくなり、大盛り上がりだった。一位のクラスの選手たちは試合後に満足した表情を見せた。一方、優勝を逃してしまったチームも悔しさを感じながらも、勝ったチームに駆け寄り、互いに称え合っている姿が見られた。

▲ 断トツの走りでゴール！

▲ 最後の体育祭への熱意がぶつかり合うリレー

〈結果〉
中一　西東南北
中二　東北西南
中三　南北東西
高１　東西南北
高２　東北西南
高３　北東南西

みんなで８の字

今年も、昨年と同様密を避けるために、全校で「みんなで８の字」が行われた。一クラスを二チームに分け、二分間で跳んだ合計の数をクラスごとに競う種目である。今年は午前中に高校生の部、午後に中学生の部が行われた。

この種目は、回し手の打つ縄のリズムに合わせて跳ぶことが大切である。また、ミスをしないよう冷静を保ったり、ミスをしても気持ちを切り換えなければいけなかったりするため、平常心が求められる。

中学生の部では、「はい！はい！」と跳ぶ際に掛け声をし合って跳んでいた。

高校生の部では、１年から３年まで全て東組が優勝し、東組の生徒たちは盛り上がった。合計で四〇〇回を超えるクラスも見られた。跳び終えた後は大きな拍手に包まれた。

〈結果〉
中一　南西北東
中二　西南北東
中三　北東西南
高１　東西南北
高２　東西北南
高３　東北西南

▲ 学年１位の中三北

▲ 学年１位の高３東

八〇〇m

一〇〇m走の後は八〇〇m走が行われた。この種目は、中学生の部と高校生の部があり、八〇〇mのタイムを競う種目である。各クラス最大三名まで出場することができる。

まずは中学生の部。トップを走る選手は序盤からリードを広げていた。残り一〇〇mで二位の選手が追い上げたものの、逃げ切り一位を取った。

今回、見事一位に輝いた中二東組の熊谷日向さんは、「最初の走りで一位だと確信していた。足の回転を一定にして腕ふりを意識して走った。来年も一位を取りたい。」と嬉しそうに話した。

続いて高校生の部。一位の選手は安定した走りで二位との差を広げ、ゴールテープを切った。一位を取った高１東組の橋本詩音さんは、「最後二〇〇mで優勝だと思った。一周のペースをなるべく均等にするようペース配分に気をつけた。所属する陸上部の大会でも良い結果を出したい。」と笑顔で語った。

一位の選手がゴールテープを切る瞬間を、観客は皆、注目していた。歓声の飛び交う中、誰も棄権することなく最後まで懸命に走り抜いた。選手一人ひとりがベストを尽くすことができた良い大会となった。

▲ １位の熊谷さん(右)と２位の小山さん(左)

▲ 高１の橋本詩音さん

〈結果〉
○中学生の部
一位　中二東組
熊谷日向
二分四十一秒
二位　中三西組
小山友歌
二分四十二秒
三位　中一南組
高桑璃子
二分五十一秒
○高校生の部
一位　高１東組
橋本詩音
二分三十二秒
二位　高１西組
成島かれん
二分四十三秒
三位　高２東組
秋山莉咲
二分四十四秒

息の合った高３ダンス

高校３年生は、体育祭が今年で最後となった。各クラスごとTシャツや横断幕を作り、会場を彩らせ、高３の仲間と共に熱い思いのこもったダンスを披露し、盛り上げた。本番前には、学年の全員で円陣を組む場面が見られた。本番中には、観客や仲間から掛け声や声援をうけながらダンスを踊った。各クラスの発表が終わった後には、学年の全員が集結し、「マル・マル・モリ・モリ！」を踊った。退場では、「ハム太郎とっとこうた」に合わせ、互いの肩を持ち、退場した。

〈東〉

東組は、テンポの良いリズムが特徴のYOASOBIの「群青」、ゴリエの「pecori night」、ポップな明るい曲、YENAの「SMYRY」を踊った。着用したクラスTシャツは、左袖に出席番号が入っており、ドラえもんがデザインされたもの。五分程の振り付けの中に組み込まれた一糸乱れぬフォーメーションで観客を沸かせた。

▲「EAST」の文字を作る高３東組

〈西〉

西組は、皆によく知られた曲であるAKB48の「ヘビーローテーション」で始まった。ケロポンズの「エビカニクス」では、曲中の声の掛け合いに合わせて楽しそうに踊った。着用したクラスTシャツのデザインは、人気のお菓子 kit kat ならぬ「Kit Katsu」。裏には出席番号と自身が考えたキャッチコピーが印字されていた。

▲ 軽快にダンスを踊る高３西組

〈南〉

南組は、クラスカラーである黄色のTシャツを身にまとい、ハイテンポなリズムに合わせた軽快なダンスを披露した。

Psyの「カンナムスタイル」という曲では、サングラスをかけたユニークな姿が見られた。クラスTシャツには、一人一人の背番号やキャッチコピーが書かれていた。

▲ リズムに合わせて踊る高３南組

〈北〉

北組は、クラスカラーである黒のTシャツを身につけ、滑らかかつ、息の合ったダンスを披露した。先生方が大漁旗を振り、北組全体で踊ったソーラン節や、動きがそろっていて、軽快なSnow Manの「ブラザービート」など様々な曲を披露し、観客を沸かせた。

▲「よさこい」を踊る高３北組

勝利導く 横断幕紹介

新聞部は、横断幕を制作した中二から高３までの全クラスに取材を行った。
体育祭前の放課後は、どのクラスも廊下に横断幕を広げ、和気あいあいと制作に励んでいた。当日は鮮やかな横断幕が会場を彩った。
（左から東西南北に紹介している。）

中二

ジーニーをテーマとし、ランプから EAST の文字が出るように工夫。会場で映えるよう、縁取りではっきりと。

白色のインクを計３袋使い、ベイマックスを描いた。お腹に書かれているのは中二西25人の名前や勝利への意気込み。

モチーフはチキンラーメン。右側の筋肉隆々のヒヨコは印象に残るデザインにしようと描かれた。

トイ・ストーリーの緑色のキャラクター達がモチーフ。同じ緑色の中でも、微妙な色味の違いを出した。

中三

独創的なデザインにするため、最低限の下書き以外は全て一発で書いた。東組が勝利するように願った。

競技でなかなか勝てないので、寄せ書きをし、士気を上げた。ほんわかとした強さをツムツムで表現した。

丸山先生がいつも持っているうちわを描いた。印象に残る横断幕にする為、周りを黄と黒の二色で囲った。

クラス全員と担任の先生、副担任の先生のコメントが書かれている。クラスが一致団結できるように思いを込めた。

高1

願いを叶えてくれる、という理由からジーニーを選んだ。「FJK」の文字には「ファースト女子高生」など３つの意味が込められている。特にこだわったのはランプ。魔法を色使いで表現した。

テーマは「勝利の旗まで HERE WE GO」。マリオが飛び出して見えるよう、影を付けてリアルにした。キノコなどのアイテムを最後まで悩みながらも、みんなで協力して楽しみ、制作に取り組んだ。

セーラーヴィーナスと電気系のポケモンがモチーフ。２種類のキャラクターを使用した理由は、どちらも人気だったからである。スローガンは、セーラーヴィーナスの決めゼリフをアレンジしている。

ドラゴンボールのキャラクターであるピッコロを三浦先生風に、十三号を鈴木知美先生風にアレンジした。スパッタリングという絵の具の技法を使い、華やかな横断幕となるようにした。

高2

クラスカラーが青のため、アンパンマンのコキンちゃんをイメージした。右の座標平面上のハートや数学の公式で理系らしさを出した。西組も理系クラスなので東西で統一した色違いのデザインとなっている。

東組からの提案を受け、西組は、アンパンマンのドキンちゃんをイメージした。東組と同様のデザインで統一感を出した。中央の字は、アンパンマンのタイトルを参考にし、「それいけ西」とした。

今年の干支の虎で、現代文で読んだ「山月記」の主人公の「李徴」が真ん中に描かれた。一から作画し、下書きを担当した美術部員の森川夏鈴さんは「顔の猛々しさを表現したのがポイント。」と語った。

こちらをグッと睨みつける「ワンピース」の「ゾロ」。広範囲に絵の具が施され、制作の苦労が感じられる。影や血、ハイライトなど細部にまで工夫が凝らされ、アニメの世界観が体現されていた。

高3

ドラえもんをテーマにした。ジャイアンの口から発せられた「EAST」の文字は、秘密道具「声かたまり」で立体的になる演出だ。暗記パンに数学の公式を入れ、理系らしさを出した。

人気のボーカロイド曲「KING」のイラストをモチーフにした。王冠には西組のダンスでも踊るエビカニがデザインされている。また、左下の車は担任である加藤先生の愛車で、西組らしさを出した。

デザインは「カロリーメイト」で横断幕からエネルギーを得ようという思いを込められている。クラス全員と担任、副担任の先生の名前が直筆で記された。色のグラデーションが最もこだわったポイントだそう。

右は日本史の授業で副担任の阿形先生で「徴兵免役心得」の表紙絵の人物と同じポーズを決められた為、モデルとなった。左は担任の林先生で聖書を持っている。顔も本人そっくりに描かれた。

雙葉の歴史を学ぶ一日

五月三十一日（火）、本校講堂にて学園の日のミサ、式典と音楽鑑賞会が行われた。今年はマザー・マチルドがフランスから来日してから百五十年という記念の年である。生徒達は雙葉の歴史やマザー・マチルドの人生に思いを馳せた。

式典

式典では、校長先生から二コラ・バレ神父様が幼きイエス会を創立したことについてや、五人のシスター方が日本に来たことについてお話された。また、自己肯定感についてもお話された。自己肯定感が高いと物事を肯定的に考えられるようになったり、自分の軸が出来るようになると教えていただいた。

その後、勤続二十五年の表彰があり、国語科の飯島暢子先生と美術科の千葉広一先生が表彰された。飯島先生のお話では、姉妹校の先生方と一緒にパリにあるマザー・マチルドの生まれ故郷へ行った時の思いについてや、二十五年勤続できた嬉しさをお話しして下さった。千葉先生のお話では、先生の二人の恩師についてや、美術家の道に進むか教員になるか悩まれたこと。また、「孤独」に対する先生の考え方など、自分の人生を通して考えてこられたお話しをして下さった。二人の先生の素敵なお話に、心を打たれ、感銘を受けて涙を流す生徒もいた。

▲ 講堂の上から歌う聖歌隊

ミサ

ミサは、講堂二階ギャラリーにいる聖歌隊の美しい歌声と共に厳かな雰囲気で始まった。

本校の理事長の林健久神父様の司式で行われた。神父様のお話では、五月三十一日が、二コラ・バレ神父様が帰天された日であることから、帰天とはどういうことなのか、また、マザー・マチルドの生き方をお話しされた。

このミサを通じて、マザー・マチルドや二コラ・バレ神父様の偉大さについて生徒達は学んだ。

▲ 厳かな風景気のミサ

音楽鑑賞会

五月三十一日、ピアニストの阪田知樹さんをお招きして演奏会が行われた。美しく且つ力強い音色に、生徒は皆圧倒された様子であった。

演奏会では「クロリスに」「主題と変奏」「愛の夢」「ポロネーズ」等の有名な七曲が演奏され、生徒達は聞き入っていた。演奏の合間には曲の解説もあり、多くの生徒が音楽に興味を持つきっかけとなったのではないだろうか。

阪田知樹さんはピアニストとなったきっかけについて、「幼い頃あこがれのピアニストの演奏会で感銘を受けたことがきっかけだった。」と語った。今後の目標については、「他の人を感動させられるような演奏をすることを使命としている。初心を忘れず頑張っていきたい。」と話した。また「音楽は、物理的でない人の感情をも表現できる。聞く時は、タイトルからその曲のイメージが分からなくても自分で想像をふくらませられる。」と、音楽の楽しさ、可能性について語っていた。最後に阪田知樹さんは「今の自分があるのはやりたいことを我慢せずにやってきたから。皆さんも、やりたいことを大切にしてほしい。」と雙葉生に向けて、メッセージを残した。

▲「ラ・カンパネッラ」を演奏する阪田さん

▲ インタビューに答える阪田さん

オープンキャンパス

六月四日(土)にオープンキャンパスが行われた。来校した小学生は雙葉生との交流を楽しんだ。

部活動体験ではコーラス部は雙葉祭での公演の劇中歌をダンスと共に披露した。ハープ部や吹奏楽部はメドレーを演奏し、観客達は美しい音色に聴き入っていた。廊下では沢山の生徒が笑顔で呼び込みを行い、小学生の興味を引きつけようと奮闘していた。その他にも授業見学や生徒会による学校紹介が行われた。前日の中掃除から当日の対応まで一人一人が小学生をもてなそうと生き生きと活動に励んだ。

▲ ハープ部の演奏

未来ミュージアム

中二生は六月、ふじのくに地球環境史ミュージアムへ行った。訪問前の事前学習では元本校で理科教師で、現在同ミュージアムネットワーク理事である清邦彦先生からお話をうかがった。

バックヤード体験では標本の管理や登録をする場所を見せていただいた。〝自然を記録する〟というお言葉が印象的だった。採取したときと同じ形で残り続けるチョウは神秘的であった。また、フロントヤードでは自然と人間のバランスをシーソーで表した展示などを見学した。

環境問題や自然との共存についてじっくりと考え、見つめ直すことができた。

▲ 生物のつながりについての展示に見入る

朝読書

六月十三日(月)～十七日(金)を「朝読書週間」とし、八時五分から二〇分までの十五分間、全校で読書をする取り組みを行った。

朝読書週間は前期と後期に一回ずつあり、生徒が本に親しむことができる貴重な機会である。朝読書で読まれている本のジャンルは、純文学はもちろん、新書やSFまで幅広い。友人とおすすめの本を互いに紹介する姿も見られた。

次回は十月十七日(月)～二十一日(金)。

▲ 朝読書に参加する生徒達

青春の軌跡

●丸山和輝先生●

Q 学生時代のニックネームは。

A 「丸ちゃん」としか呼ばれたことがありません。

Q 教師を志した理由。

A 高2の時の担任の先生と教師である父の影響です。担任の先生は人生についての話をよくしてくださり、深く考えさせられました。社会や英語などの教科と悩みましたが、幼少期から本が好きだったことなどから国語科の教師になりました。

Q 雙葉に来るまでの経歴。

A 大学卒業と同時に雙葉に来ました。三十六年と長くいる雙葉での思い出はどれも印象的ですが、中二を受け持った際の錬成会で見上げた夜空は特に思い出深いです。

Q 国語の魅力は。

A 文学によって距離も時間も関係なく想像力を使って自由に考えられるところです。情報化社会の中、世界は小さいけれども、心は未来へも過去へも飛んでいける。これは文学ならではのことです。国語科になった決め手の一つでもあります。

Q 趣味は。

A 最近ではSUPや長距離ドライブです。ちなみに小学五年生から四十代まではテニス、大学生からはダイビングをやっていました。

Q 座右の銘は。

A 「未来の自分を変えるのはたった今」です。Bank Bandの大好きな歌の歌詞だからです。

Q 憧れの人は。

A 冒険家の植村直己さんです。著書である「北極圏1万2000キロ」は愛読しています。誰も何もやったことのない、自分の全く知らない世界に飛び込んだことに感動します。

Q 雙葉生へ一言。

A たくましい心を持ってください。

高校時代の丸山和輝先生

●後藤浩文先生●

Q 学生時代に熱中したこと。

A 今まで誰にも言っていなかったのですが実は、大学時代に合唱団に所属し、団長を務めていました。演奏会に向けて日々練習をしていました。

Q 教師を志した理由。

A 中高の時から英語が特に大好きで誰にも負けたくないと思いながらずっと勉強していました。その英語を人生の後輩達に教えたら面白そう！と思い、教職を志しました。

Q JICAでの仕事。

A 大学卒業後、教員として働いていました。しかし、大学四年で行ったカンボジアで、自分と現地の人々との貧富の差を目の当たりにしたことが忘れられず、一念発起してJICA海外協力隊に入りました。初めの派遣地はエジプト。学校に行けない子供達のためのイスラム教の施設の運営業務を行いました。初めは一人しか来ませんでしたが、多くの子供が通ってくれるように働きかけました。しかし二〇一二年のアラブの春で強制退去を余儀なくされ、次はウガンダへ。大使館で無償支援の申請書を承認する仕事をしていました。続いて、JICAでの仕事に活かすために、アイルランドの大学院で紛争や難民についての学びを深めました。最後はアフリカのシエラレオネ。一九九一年の内戦の影響で経済状態は壊滅的でした。その状況を打破するべくまずはインフラを整えて地方自治の改善を図りました。国の基礎を築いた上で次は安定したガバナンスづくりです。平等で住民との信頼関係がある政府の樹立のためにチームで行政に働きかけました。シエラレオネと東京の往復の日々が続き、体力的にきつかったですが、国ののどかさが好きなのでまた訪れたいです。

Q 行ってみたい国。

A イランです。依然中東への興味が高く、エジプトとの宗派や言語の違いを比べてみたいです。

Q 雙葉生へ一言。

A 皆さん、とても良い人達です。だからこそ、安易な選択を避け、見えにくい真実を探すことを大切にして下さい。

大学3年生の後藤浩文先生

編集後記

部長としての日々がもう十ヶ月経とうとしています。発行する度に感想や励ましの言葉を下さる読者の皆様が新聞製作の原動力です。全部員八名の内、六人が中学生ですが、皆やる気いっぱいでたくましく成長してくれています。残り二ヶ月、楽しく、全力で駆け抜けます！　高2　M・K

今号は体育祭について深掘りしました。皆さんに取材をしたことが印象深いです。勝利のために重点的に練習したことや横断幕のこだわり。取材を受けてくださった方々はどなたも熱く語ってくださいました。四色の熱戦を取材で得たエピソードと共にお伝えします。　中二　S・Y

四面を担当しました。今回は体育祭の特集号となっています。高3ダンスや各クラスの横断幕など、様々な内容を記事にすることができました。体育祭の臨場感が伝わる内容となっていると思います。楽しんでいただければ幸いです。取材へのご協力、ありがとうございました。中二　H・A